

茨陵会

大阪府立茨木工業・工科高等学校同窓会新聞 第7号

2013年7月1日発行

大阪府立茨木工科高等学校

〒567-0031

茨木市春日5丁目6-41

TEL: 072-623-1331

FAX: 072-623-0652



ごあいさつ

会長 小池 隆彦

茨陵会会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと思います。日頃は当会の活動に対し、多大なご支援を賜りありがとうございます。心より御礼申し上げます。

昨年12月1日は、茨木工業・茨木工科高等学校創立50周年記念式典を

盛大に行う事ができました。皆様方のお力添えのお陰と感謝しております。特に、午後からの記念式典では、懐かしい先生方の変わらぬお顔を見し、また懐かしいクラスメイトの笑顔も数多くあり、大変楽しい時間を過ごす事ができました。ウインドカンパニーの素晴らしいジャズ演奏が、この楽しい時間をより一層引き立ててくれました。

私は本校の一期生です。開校当時の本校周辺は池と田んぼと倉庫があるだけでした。赤土の上にボツンと建った二棟の校舎で、当時はプールも体育館もなく、中庭も植木もなく、それは殺風景なものでした。

あれから50年経ち、学校周辺の景観は随分変わりましたが、本校には「ものづくりのスペシャリスト集団」

を排出する伝統と精神が今まで脈々と受け継がれています。現在、茨陵会会員約13,000人が社会で活躍しており、本校はこの卒業生が築き、守り続けてきた歴史と伝統のお陰で、社会からの信頼をいただいている。私は日本の経済を支えているのは、「ものづくり」だと信じています。この先50年、100年この伝統を守り続ければ確信しております。

さて、茨陵会会員の皆様におかれましては、ぜひ「茨陵会ホームページ」を会員相互の情報交換の場として活用していただき、一層親睦を深めていただければ幸と存じます。

最後になりましたが、引き続き皆様のご協力、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

創立50周年記念号



着任のごあいさつ

校長 辻井 安喜

茨陵会の会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。校長の辻井です。平成24年4月に長谷川前校長の後任として着任しました。

茨木工科高校は、平成24年度に工業高校時代も含めて創立50周年を迎える、平成24年12月1日（土）、高槻現代劇場におきまして、記念式典及び

記念行事を盛大に開催することができました。これもひとえに茨陵会をはじめ多数の関係者の皆様のご協力のおかげだと心より感謝申しあげます。

記念式典には、大阪府教育委員会教育監（当時）川村幸治様、大阪府議会議員 森みどり様、茨木市教育委員会教育長 八木章治様、茨木商工会議所会頭 掛谷健郎様をはじめ多数のご来賓のご臨席をいただきました。司会進行は、生徒会会长の音在慎吾君（7期、現3年生）、生徒代表の挨拶は、村上拓磨君（6期）にお願いし、それぞれ立派に役割を果たしてくれました。また、参列した生徒の態度も良好でご来賓の皆様からもお褒めの言葉をいただき、校長として大変うれしく思いました。

さて、昨年度は、「小型人工衛星の打ち上げに参画する」、「ものづくり

技術を生かした社会貢献の取り組み」で、相次いで府教育委員会の2つの事業で推進校、支援対象校に選ばれ、相当額の予算をいただき、施設設備の充実を図ることができました。今後とも、本校の取り組みを高く評価していただいていることを励みに、さまざまな実践に発展的拡大して取り組み、わが国の産業を担う有為な人材の育成につなげていきたいと決意を新たにしております。また、平成26年度には、工学系大学進学のニーズに対応するため、従来の機械系・電気系・環境化学システム系に加え、新たに進学系・専科が設置される予定になっています。創立50年を経て、茨木工科高校はさらに進化します。今後とも、母校のますますの向上と発展のため、さらなるご支援とご鞭撻をいただきますようお願いします。

創立50周年記念募金寄付者芳名 (1口 5,000円 学校・茨陵会へのご寄付合算)

◇ 100口 ◇		辻 康文 旧職員	松田 力三 16期 E 科	廣野 紀世美 一輪会
小池 隆彦	1期 E 科	中村 彰宏 旧職員	常 徳三 16期 E 科	廣野 武 一輪会
◇ 20口 ◇		柳澤 敬晃 旧職員	野坂 貞夫 18期 E 科	木村 弘 一輪会
表記希望無	1期 M 科	竹原 正勝 旧職員	伏原 政彦 18期 M 科	山添 悅子 一輪会
◇ 10口 ◇		浅井 和吉 旧職員	本村 修 19期 E 科	尾崎 豊子 一輪会
高橋 一夫	元校長	吉岡 旦 旧職員	南 健二 20期 E 科	當麻 真弓 一輪会
旧職員の会	茨温会	大串 龍生 旧職員	梅原 伸郎 23期 C 科	表記希望無 旧職員
秋本 文久	4期 M 科	坂じゅんいち 旧職員	戸田 誠 23期 M 科	川中 肇 1期 C 科
◇ 9口 ◇		寺井 久良 旧職員	萬木 良知 24期 E 科	故人(奥様より) 1期 C 科
川崎 正夫	7期 M 科	玉本 英明 旧職員	大石 太 24期 M 科	碓井登志夫 1期 E 科
◇ 8口 ◇		竹中清一郎 旧職員	大門 孝弘 28期 E 科	西 三千雄 1期 E 科
藤井 啓文	元校長	根前 幸治 旧職員	中田 和幸 2 期 M 系	清水 政雄 1期 E 科
中村 英夫	1期 M 科	伊藤 龍志 旧職員	山口 忍 5 期 S 組	山口 孝治 1期 E 科
◇ 6口 ◇		五十嵐康夫 旧職員	大村 佳之 在校生	梅原 保夫 1期 M 科
大谷地元一	元校長	西村 秀美 旧職員	◇ 1口 ◇	森本 義男 1期 M 科
浅田 秋彦	旧職員	樋口 真光 旧職員	百崎 大次 旧職員	3期 工業化学科 2組 同窓生
榎 藤次郎	一輪会	大神 弘 旧職員	山崎 純一 旧職員	上西 栄治 3期 E 科
辻田 剛一	学校協議会	高嶋 保 旧職員	山口 茂 旧職員	大垣 真一 3期 M 科
3期M4組有志	3期 M 科	加藤 憲雄 定職員	坂部 亘男 旧職員	岩井 秀司 3期 M 科
椎本 和雄	5期 M 科	岸本 和美 一輪会	岡垣トモ子 旧職員	宮崎 孝次 3期 M 科
本津 茂樹	6期 M 科	杉江 良美 一輪会	岡田 達雄 旧職員	尾畠 武志 4期 E 科
◇ 4口 ◇		中川 幹雄 1期 C 科	長谷川耕三 旧職員	森本 博 4期 M 科
相川 三郎	元校長	塩谷 重男 1期 E 科	三浦 正義 旧職員	杉原 好夫 6期 M 科
青木 昭二	旧職員	木沢 憲一 1期 M 科	勇上 淳子 旧職員	西村 準一 10期 E 科
後藤田 昇	旧職員	菱本 哲造 1期 M 科	森脇 豊 旧職員	上地 健一 11期 M 科
上原 紗江	旧職員	大矢 慎 1期 M 科	丸岡 十七昭 旧職員	大島 淳 13期 M 科
上野 晴久	旧職員	箕山 猛 2期 M 科	田中 忠士 旧職員	松下 康則 16期 E 科
表記希望無	旧職員	足立 実 3期 C 科	伏見 洋子 旧職員	上岡 正 16期 E 科
高橋 正行	1期 C 科	吉本 健一 3期 M 科	祝部 晋也 旧職員	澤田 孝治 17期 M 科
久保田文夫	1期 M 科	福井 幸治 3期 M 科	若林 俊男 旧職員	宮下 幸宏 18期 C 科
今村 光伸	11期 C 科	白井 修 3期 M 科	吉崎 一郎 旧職員	福嶋 豊 19期 E 科
野口 享	14期 M 科	馬上 修 4期 E 科	松本 健 旧職員	森本 康裕 21期 M 科
◇ 3口 ◇		山本二三雄 4期 M 科	石田 精一 旧職員	羽室 賢治 22期 M 科
石橋 三彦	旧職員	満尾 孝二 4期 M 科	上田 和雄 旧職員	森本 弥智 23期 M 科
岸田 恵	一輪会	田中 守 5期 M 科	竹見 徳一郎 旧職員	宮下 達 26期 M 科
中蘭ひとみ	一輪会	宮崎 朝喜 5期 M 科	黒木 正孝 旧職員	渡邊 智 27期 C 科
◇ 2口 ◇		長谷川初枝 7期 C 科	鈴木 健仁 旧職員	吉峯 元 29期 E 科
小原幸四郎	元校長	足立 具成 7期 E 科	黒田 賢一 旧職員	乾 照明 35期 E 科
森 均	元校長	中野 馨 7期 M 科	川添 俊子 旧職員	廣野 敏崇 36期 E 科
岡垣 憲一	旧職員	三輪 幸夫 7期 M 科	戸田 正弘 旧職員	藤原 晃平 39期 M 科
田井 基温	旧職員	山口 貴士 7期 M 科	金谷 博志 旧職員	梅林 徹 5期 C 系
宇野 一彦	旧職員	木下 定 7期 M 科	紺本 順平 旧職員	表記希望無 在校生
半田 孝	旧職員	高木友一郎 8期 E 科	中井 仁 旧職員	表記希望無 6期 C 系
木村 博之	旧職員	湯戸 敏 8期 E 科	原藤周一郎 旧職員	表記希望無 6期 E 系
鳥山 幸嗣	旧職員	河合 弘之 8期 E 科	佐藤 智康 旧職員	
山根 正弘	旧職員	寺嶋 章 9期 E 科	寺師 吉一 旧職員	
		服部 吉延 9期 E 科	中島 良樹 旧職員	
		菅 行弘 9期 E 科	畠中 利明 旧職員	
		有福 浩三 11期 M 科	福岡 優 旧職員	
		木ノ平智也 11期 M 科	森 明美 旧職員	
		木梨 進悟 15期 E 科	赤羽根充男 旧職員	
		山野 昇 15期 M 科	永沼 幸子 一輪会	
		藤原 孝 16期 C 科	山元けい子 一輪会	
		大渕 徹 16期 E 科		

学校へのご寄付
総額 1,202,500-

茨陵会へのご寄付
総額 1,319,360-

※振込手数料は茨陵会
で負担しました。

沿革概要

昭和36年 2月27日 府立第10工業高等学校(仮称)用地として茨木市倍賀及び畠田の土地33,015m²買収

昭和37年 7月 7日 地鎮祭挙行
10月11日 大阪府議会で府立高等学校設置条例の一部を改正する条例が議決され、本校の校名及び昭和38年4月1日より開校が決定

昭和38年 2月 1日 大阪府立茨木工業高等学校設立準備室が設置され、大阪府公立学校教員今井収本校設立室長を命ぜられる
2月21日 第1期工事竣工(本館)
4月 1日 開校(機械工学科・電子工業科・工業化学科)
4月 1日 大阪府公立学校教員今井収本校校長に任せられる

昭和39年 2月25日 第2期工事竣工(実験棟、工場棟)

昭和40年 2月28日 第3期工事竣工(実験棟、工場棟)
8月31日 第2運動場用地6,768m²買収

昭和41年 1月 7日 第4期工事竣工(体育館)
11月30日 第5期工事竣工(体育館)

昭和42年 4月 1日 定時制課程(機械製図科・自動車科)設置

昭和43年 4月 1日 大阪府公立学校教員山本外次本校校長に任せられる
11月30日 自動車実習工場竣工

昭和44年 3月31日 プール用地147m²買収
7月20日 プール竣工

昭和45年 3月10日 工場棟増築工事竣工
10月21日 第3運動場用地2,270m²買収

昭和47年11月 5日 創立10周年記念式典挙行

昭和48年 4月 1日 大阪府公立学校教員大谷地元一本校校長に任せられる

昭和51年 4月 1日 大阪府公立学校教員北辻要本校校長に任せられる

昭和53年 3月28日 給水設備改修工事竣工

昭和54年 4月 1日 大阪府公立学校教員相川三郎本校校長に任せられる

昭和55年 3月31日 放流切替その他改修工事竣工

昭和57年 3月31日 美術教室設置工事竣工
4月 1日 大阪府公立学校教員種谷順次本校校長に任せられる
11月 6日 創立20周年記念式典挙行

昭和58年 3月31日 運動場照明設備改修工事竣工
3月31日 実験棟給水管改修工事竣工

昭和59年 3月31日 消化管改修工事竣工
3月31日 プール用壁改修工事竣工
11月21日 消化ポンプ取替工事竣工
12月27日 プール配管その他改修工事竣工

昭和61年 4月 1日 定時制課程機械製図科を機械科に科名変更

昭和62年 3月31日 壁改修工事竣工
4月 1日 大阪府公立学校教員藤井啓文本校校長に任せられる

昭和62年 7月 4日 茨木市春日保育所移転建替に伴う補償工事竣工

平成元年 2月28日 ガス管改修工事竣工
3月20日 プールろ過装置改修工事竣工
3月31日 屋外倉庫改築工事竣工

平成2年 3月29日 自動車実習工場、自動車分解整備事業場の認証を受ける
4月 1日 大阪府公立学校教員南山圭三本校校長に任せられる

平成3年 8月 6日 定時制課程自動車科、第一種自動車整備士養成施設の指示を受ける

平成4年 9月30日 本館北側外壁改修工事竣工
10月24日 創立30周年記念式典挙行

平成5年 9月30日 本館南側外壁改修工事竣工

平成6年 3月31日 排水設備改修工事竣工
4月 1日 全日制課程工業化学科を環境化学科に科名変更
4月 1日 大阪府公立学校教員高橋一夫本校校長に任せられる

平成7年 3月10日 家庭科棟増築その他工事竣工
3月25日 「阪神淡路大震災」に伴う校舎補修工事竣工
3月31日 市道元町上穂積四丁目線道路改良事業に伴う修復工事竣工
9月20日 CAD実習室整備工事竣工
10月16日 実験棟北側外壁改修工事竣工

平成8年10月21日 体育館、渡り廊下外壁改修工事竣工

平成9年 4月 1日 大阪府公立学校教員新野静喜本校校長に任せられる
9月30日 渡り廊下外壁改修工事竣工

平成10年 9月18日 実験棟外壁改修工事竣工

平成11年 9月10日 工場棟外壁改修工事竣工

平成12年 4月 1日 大阪府公立学校教員丸尾義裕本校校長に任せられる

平成13年 2月28日 LAN設備更新

平成14年 3月29日 工場棟他1棟屋上防水改修工事完了

平成15年 4月 1日 大阪府公立学校教員小原幸四郎本校校長に任せられる

平成17年 4月 1日 大阪府立茨木工業高等学校の募集を停止し、同校内に大阪府立茨木工科高等学校を設置する

平成18年 8月21日 実験・教室棟増改築工事竣工

平成19年 3月31日 大阪府立茨木工業高等学校全日制の課程閉課程

平成19年 4月 1日 大阪府公立学校教員森均本校校長に任せられる

平成20年 9月 5日 体育館耐震改修工事竣工

平成21年 4月 1日 大阪府公立学校教員長谷川悟本校校長に任せられる

平成23年 3月25日 福祉整備工事竣工

平成24年 4月 1日 大阪府公立学校教員辻井安喜本校校長に任せられる
11月 実験棟耐震補強工事竣工予定

創立50周年記念式典

平成24年12月1日
於 高槻現代劇場



会場



会長あいさつ



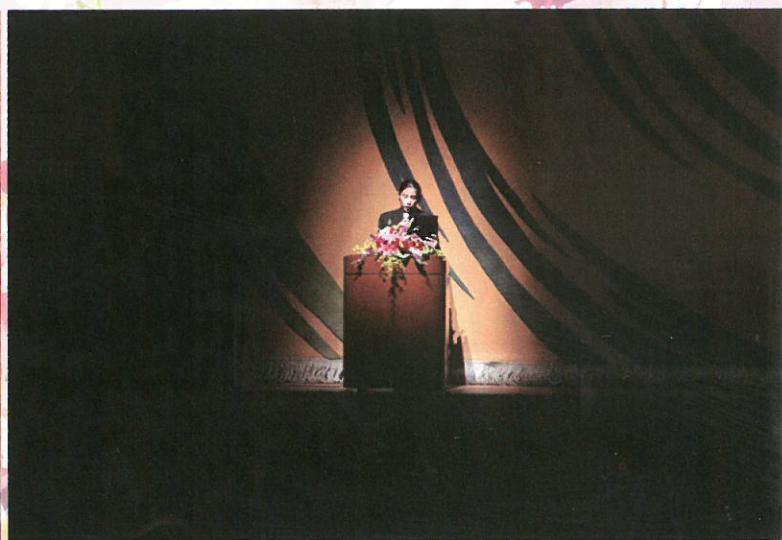
校歌齊唱



第2部 ジャズオーケストラ



ロビー（入口）展示



司会者 生徒会会長

祝賀会の様子



50周年記念式典を終えて

生徒会長 音在慎吾

まずは、在学中に『創立50周年』という、歴史の大きな節目に立ち会えた事を、心より感謝させていただきます。

記念式典では、及ばずながら司会進行という重要な仕事をさせて頂きました。当初は、本当に私のような者が、莊厳な式典で司会を任されるなどとは夢にも思っていませんでしたので、何よりもまず不安でした。

しかし、本番では原稿を読み間違えるような事も無く、完璧とは言えないまでも、なんとか無事に大役を果たす事ができ、胸を撫で下ろす事ができました。この司会を務めさせてもらったことは、「良い経験」とな

ったのは間違いありません。

さて、50年といえば半世紀ですが、10代の私としては、ただただその数字の大きさに圧倒されてしまいます。正直なところ、茨木工業・工科高校が積み重ねてきた歴史の重みを想像する事は難しかったです。

そこで、本校の歴史に思慮深く触れる為、『茨工五十周年記念誌』を紐解いてみました。何度も読み返していく中で、この50年間という長大な時間の中で変わっていったものは多くありました。逆に変わることなく、脈々と受け継がれてきたモノが確かにある事を改めて知りました。

それは、この学校に通う生徒の

「活気」です。

記念誌を読んで、学校の環境が目まぐるしく変化したこと、校内設備も次々と新しくなり充実してきたことや、学校生活を送る生徒や先生方の考え方へ従って、校則などの学校体制が変化してきたことも知りました。そこで、この時代に生きる私たちの今の活動もまた、次の世代に影響を与えていくということに気づかされ、この伝統ある茨木工科高校に私たちの世代が残した成果や変化が不変の歴史として積み重なっていくであろうことにとても喜びを感じました。

これから学校生活でも、できるだけよいもの・活気ある本校の伝統行事を後輩たちに残していくように、今を精一杯生きていこうと思います。

平成24年

時 の 流れ

過去 現在 未来

2012

●学校の出来事

4月

- 特別教室棟耐震工事（～11月）
下旬以降 耐震補強工事始まる
9日 前期始業式・入学式
(第8期生)

6月

- 8日 体育祭
●自転車競技部
インターハイ出場クラブ
2M3 須々田敏輝
2M3 田窪賢次

●この年の出来事

- 5月 5日 全原子力発電停止
20日 金環食観測
22日 東京スカイツリー開業
- 6月20日 国連持続可能な開発会議（リオ+20）
(～22日)
- 7月 5日 大飯発電所3号機発電開始
2ヶ月ぶりに原子力発電所稼働再開
11日 小沢一郎以下49人で新党
「国民の生活が第一」結成される
27日 ロンドンオリンピック開催（～8月12日）

通用門中庭側クラブ部室の屋根ならびに グランド側クラブ部室の改修

外観が汚くみすぼらしい感じのクラブ部室が、茨陵会事業予算でリニューアルしました。



倉庫の設置

周年事業基金で正門よりのグランド内に1台、部室横に1台、テニスコート内に1台設置されました。それぞれ生徒会関連の資材置き場や野球部・テニス部の道具入れとして利用します。



50周年記念事業の概要

体育館の3連椅子の購入

古くて痛んでいた椅子を新しくしました。300脚を周年事業基金より購入しました。



足洗い場の新設

体育館北側のスペースに茨陵会事業予算で設置しました。体育の授業や部活動に大いに役立てていきます。



プロッター

A4の用紙を最大A0(模造紙)に拡大印刷することができます。新棟2階電気器具室にあります。周年事業基金で購入しました。





トロフィーケース

周年事業基金で事務室前に設置します。各クラブの奮闘でたくさん集めてください。

ボール付きのソーラ大時計

周年事業基金で正門付近に設置します。学校の外からもはっきりと見えます。

メロディーチャイム

いつもの音色から、校歌に代わります。周年事業基金から支出します。

50周年記念横断幕の作成

教室棟北西側壁面と実習棟の東側壁面に貼りだしています。正門と通用門から見えます。



耐震補強工事始まる

耐震補強工事に伴う空調設備工事が4月～6月、9月～11月に施行されます。7月からは特別教室棟耐震改修工事が始ま

りました。11月まで行われます。特別教室棟と機械工場の間や中庭は工事のため使用できなくなりました。文化祭は活動場所が制限され、食品模擬店は例外的に校舎外（教室棟の北側や駐輪場）にテントを設置して行われます。

新たな遅刻指導方針

延べ2万回を超える遅刻回数を何とか減らそうと、生活指導部中心に新たな指導方針を策定し、第一回考査後から試験的に実施することになりました。遅刻をした生徒はまず生活指導部室に行き、そこで入室許可証をもらうと同時に遅刻指導を受けます。そして入室許可証を持って教室などに行き、それを授業担当者に渡します。どの程度の効果があるかは現状では評価できません。しかし前年度に比べると遅刻の数は減少しています。

着任された先生

辻井安喜（校長・茨木工教頭）	原田 恵（英・新採）
山崎一郎（教頭・茨木工首席）	植本卓也（機・佐野工定）
塙見圭祐（首席・茨木工）	今西啓子（機・城東工）
井田貴文（国・期付）	古和 武（機・和泉総合）
河村剛太（数・再任用）	島本公仁（電・期付）
島谷 剛（数・再任用）	中川京美（化・新採）
大橋 有（体・刀根山）	国府健児（化・期付）
市川さや（美・守口支援）	長濱保男（事・八尾土木）

離任された先生

長谷川悟（校長・北千里校長）	西畠 賢（機・西野田工）
辻井安喜（教頭・茨木工校長）	上田和雄（機・期付）
山崎一郎（首席・茨木工教頭）	播田晃久（機・期付）
吉岡佐都美（国・東淀川）	中村浩昭（電・淀川工）
古田昭文（国・期付）	橋野英希（化・再任退職）
門内正美（社・期付）	桑沢聖美（化・再任退職）
前橋健司（体・園芸）	金谷博志（化・期付）
西村秀美（家・期付）	伊東博一（化・期付）
大谷恵美（家・期付）	川本敏之（事・八尾支援）
森 明美（美・寝屋川）	山脇 亮（技・茨木）
伏見洋子（英・退職）	



茨陵会会員の皆様におかれましては、ご健勝のことと思います。

創立50周年記念誌が発行されてから、およそ半年が過ぎました。会員の皆様も手に取って見ていただけたでしょうか。ここでは編集後記には書かれていないお話をしたいと思います。編集後記を書いている頃は、最後の仕上げをしている真最中でした。

最後の仕上げとは「校正」です。

卒業生の皆様へ

茨木工科高校 第7期生
硬式野球部 主将 笹井 健太

創立50周年の記念事業として体育館前に手洗い場と足洗い場を設置していただき、また、部室の外壁を塗り替えていただきありがとうございます。

今まで体育の授業後やクラブ活動後に手を洗ったり、足を洗ったりする場所がなかったので、今では体育の授業で汗まみれになった顔や手を洗ったりして、みんなでよく使用しています。これから夏に向けて暑くなり、一層みんなが使う頻度も増え、今まで以上にみんなの憩いの場となると思います。

部室の外壁も以前は、色が剥げて

創立50周年記念誌編集後記のその後

創立50周年記念誌 編集長 三谷 兼一郎

この作業がこれほど大変であるとは思いもしなかったです。特に人名漢字には泣かされました。この漢字で本当に正しいのだろうか、根拠は何だろうか、そして40周年までの中にもうった誤字、脱字。これらについて編集委員の先生方、そして(株)トウユーの真砂さんと何度も何度も確認作業を行いました。学校においては集中してできないので、原稿を自宅に持ち帰り赤ボールペンでのチェック。いったいいつ終わるのだろうかと思いながら、終わりのない校正作業を続けていました。

記念式典やその前の職員会議では絶対に配布したい。そのための最終締切はいつなのか、それを何度も確認しながら校正作業を続けました。そして最終締切の日、本当に清々しい気持ちで原稿を渡し、やりきったという気持ちで一杯でした。変な例えではありますが、娘を嫁に出すような気持ちでした。

そして初版0号が2冊届きました。1冊は辻井校長に、もう1冊は私が

戴きました。本当に嬉しかった。これを作り上げるために、汗を流したんだなあと感慨にふけりました。

その後、職員会議などで配布するために300冊が届きました。その時に最初の間違いが発見されました。それを知らされた時、目に涙が溜まってしまい、流れ落ちるのを留めるのが大変だったことを今も覚えていました。そして職員会議で配布した後、更には記念式典で配布した後、誤字が発見されました。本当に情けなかった。あの時、もう少ししっかりとチェックをしていればこんな事にはならなかったのだ。いや、ベストは尽くしたのではなかったのか、自問自答の日を過ごしました。

こんな記念誌ですが、多くの方々から好評を得ることができました。字を間違われた方達には失礼とは思いますが、私たち編集委員、(株)トウユーの方々の熱い思いが詰まった記念誌だからだろうと思っています。まだ、お持ちでない方は是非、手に取ってご覧ください。



いましたが、今回の塗装工事によって、見違えるほどきれいになり、部室の中も外壁に負けないようにみんなできれいに掃除をしました。今では気持よく部室を使用して、クラブ

活動も夏の大会に向けて頑張っています。

これからも今まで以上に応援よろしくお願いします。ありがとうございました。

記念品および 学校環境整備費事業

50周年記念行事の一環として、学校環境整備費を予算化し、さび付いた来客用下足ロッカーを買い替えたり、クラブ活動用品の購入、グラウンド整備等を行いました。



平成24年度 創立50周年事業決算書

収入の部

(単位:円)

科 目	決 算 額	備 考
前 年 度 繰 越 金	4,575,644	
記 念 行 事 積 立 金	6,344,000	PTA記念行事積立金から繰入
祝 賀 会 参 加 費	890,000	178人 (@5,000)
生 徒 徴 収 金	1,917,500	記念行事782人 (@1,000)、視聴覚行事757人 (@1,500)
記 念 誌 代	269,000	送付94人 (@2,500)、手渡し17人 (@2,000)
寄 付 金	1,202,500	145人
合 計	15,198,644	

支出の部

(単位:円)

科 目	決 算 額	備 考
記 念 誌 関 係 費	4,571,099	茨工50周年記念誌作製代、発送代 等
記 念 寄 贈 物 品 費	2,590,623	プロッター購入代 517,398 物置代 668,010、ショーケース代 319,200 メロディーチャイム代 319,515、モニュメント時計 766,500
記 念 式 典 関 係 費	5,076,243	ジャズバンド講演料、案内チラシ等作製・発送 祝賀会代、記念品（クリアファイル）代 等
学 校 環 境 整 備 費	1,371,151	ショベルカーレンタル料、シューズボックス代 折りたたみパイプ椅子代、部活動用品代、残土搬出処分代 等
雑 費	20,273	説明会昼食・お茶代
合 計	13,629,389	

収支の部

(単位:円)

収支決算額	支出決算額	差引残額	備 考
15,198,644	13,629,389	1,569,255	次年度に繰越

上記のとおり決算報告いたします。 平成25年3月31日

創立50周年記念事業実行委員会 委 員 長 小 池 隆 彦
総務委員会委員長 堀 田 隆 志
会 計 渡 辺 由佳里
同 中 田 雅 幸

上記監査の結果、適正に処理されていることを認めます。 平成25年4月23日

会 計 監 査 諏 訪 年 信
会 計 監 査 白 濱 恵

創立50周年記念誌 再販のご案内

ご好評のうちに平成25年2月をもって記念誌の販売を終了させていただきましたが、販売終了後も多くの方から再版の問い合わせを頂いております。

そこで、下記のとおり販売することに決定いたしました。

販売終了にあわせて、茨陵会会員がお世話になっている企業、近隣の企業へ約300冊、府立高等学校、近隣の中学校へ約300冊を配布いたしましたところ、記念誌が欲しいと申し出られる企業様もあり、当初予定していた配布数を上回りましたが、5月末日現在、80冊の販売は可能ですので、ご希望の皆様におかれましては、お申込み忘れがありませんように、よろしくお願ひいたします。



販売価格（送料込み） 2,500円

販 售 期 間
申 込 方 法

（郵便局のレターパックプラスにてお届け）
平成25年7月から平成25年12月末日
同封された新聞事務局あての赤色振込用紙に
必要事項をご記入の上、お申し込みください。

新聞の発行に際してのご寄付のお願い

平素は、本会の運営にご支援、ご鞭撻を賜り誠にありがとうございます。同窓会新聞も創立40周年前に創刊号を出してから早いもので、12年が経過いたしました。

今号で第7号となります（隔年。年一回発行）皆様方からは、毎号多大なるご寄付をいただき、順調に新聞を発行できることを、常任理事一同、感謝しております。

前号では、43万5千円のご寄付をいたしましたが、今号はカラー印刷で冊子形式にしたため、

約110万円の費用がかかっております。会員の皆様には、不景気の折、毎回誠に申し訳ありませんが、今回も1口—1,000円として何口でも結構ですので、同封の振込用紙（振込手数料は加入者負担）にて、新聞発行費用にご援助いただければ幸いです。

なお、記念誌の送付をご希望される会員様は、記念誌代金（送料込み）2,500円をプラスしてお振込みください。

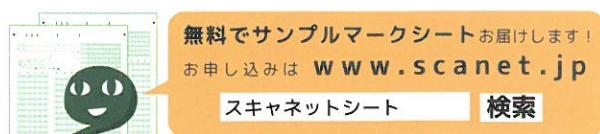
スキャナで読めるマークシート スキャネットシート

学校やオフィスのデジタルカラー複合機・小型スキャナでマークシートが読み取れます！

学校評価アンケート、センター試験校内試験に！各種アンケート、試験採点、日報・勤怠管理に！

スキャネット株式会社
代表取締役 小池隆彦
第1期 電子科 卒業

① 本社
〒100-0005
東京都千代田区丸の内3丁目2番2号
東京商工会議所ビル7F 701A
TEL03-5220-3933 FAX: 03-5220-3934



② 大阪営業所
〒534-0024
大阪市都島区東野田町5丁目2番23号
京橋セントラルビル7F
TEL: 06-6242-4477 FAX: 06-6242-4478

平成23年度・24年度 転退職された先生

平成23年度 離任された先生

五十嵐康夫（事務部長・退職）	永田 知子（英・期付）
藤田 正美（課長補佐・芥川事務長）	藤原 英明（機・淀川工）
栗村 慶（国・期付）	眞野早弥佳（機・期付）
大和田小百合（国・摂津）	丸岡 通泰（機・期付）
野々村安夫（社・再任用）	黒田 賢一（電・城東工）
辻 哲夫（社・教諭退職）	橋野 英希（化・教諭退職）
林 桂子（数・春日丘）	櫛田 明則（化・教諭退職）
山中 悠平（理・期付）	田代 榮二（化・期付）
中井 仁（理・退職）	山岡 明夫（事・退職）
三村 仁（理・期付）	10月31日

平成24年度 離任された先生

長谷川 悟（校長・北千里校長）	西畠 賢（機・西野田工科）
辻井 安喜（教頭・茨木工校長）	上田 和雄（機・期付）
山崎 一郎（首席・茨木工教頭）	播田 晃久（機・期付）
吉岡佐都美（国・東淀川）	中村 浩昭（電・淀川工科）
古田 昭文（国・期付）	橋野 英希（化・再任退職）
門内 正美（社・期付）	糸沢 聖美（化・再任退職）
前橋 健司（体・園芸）	金谷 博志（化・期付）
西村 秀美（家・期付）	伊東 博一（化・期付）
大谷 恵美（家・期付）	川本 敏之（事・八尾支援）
森 明美（美・寝屋川）	山脇 亮（技・茨木）
伏見 洋子（英・退職）	

大阪府立茨木工業高校 (1~42期)

卒業生総数

機械工学科	6,393名
電子工業科	4,175名
工業化学科	2,004名
環境化学科	507名
計	13,079名

大阪府立茨木工科高校 (1~6期)

卒業生総数

機械系	672名
電気系	381名
環境化学システム系	330名
計	1,383名

総卒業者数 14,462名

創立50周年 職員集合写真



富士火災
諏訪保険事務所

富士火災海上保険株式会社・AIG 富士生命保険株式会社 代理店
一般社団法人大阪損害保険代理業協会 会員

〒560-0014 大阪府豊中市熊野町3丁目18番40号
TEL 06 (6849) 7915 FAX 06 (6849) 7923

平成24年度 茨陵会決算書

収入の部

項目	予算	決算	増減	備考
前年度繰越金	3,035,340	3,035,340	0	
会費	1,488,500	1,462,500	26,000	6500×229名
雑収入	360	7,065	▲ 6,705	利子・卒業生
新聞賛助金	0	435,000	0	
50周年寄付金	0	1,319,360		
合計	4,524,200	6,259,265	19,295	

支出の部

項目	予算	決算	増減	備考
総会費	10,000	0	10,000	まんじゅう・お茶
通信費	50,000	640	49,360	切手・メール便
印刷費	50,000	0	50,000	文化祭案内印刷
慶弔費	100,000	40,000	60,000	錢別金・慶弔費・クラブ
会合費	70,000	22,598	47,402	理事会等
事務費	180,000	39,970	140,030	アルバム・更新料等
新入会員歓迎費	250,000	229,000	21,000	認め印鑑
50周年関連	0	50,000	0	
予備費	3,320,000	0	3,320,000	
新聞発行費	1,000,000	0	1,000,000	
合計	5,030,000	382,208	4,697,792	

次年度繰越金	5,877,057
--------	-----------

平成25年5月21日

上記の通り決算報告をします。

大阪府立茨木工科高等学校茨陵会会計 上迫真理子
監査の結果適正に処理されていたことを認めます。

茨陵会会計監査 時久加代

平成24年度 基本金積立決算書

収入の部

項目	予算	決算	増減	備考
前年度繰越金	5,373,448	5,373,448	0	
本年度繰入金	0	0	0	
雑収入	10,580	3,058	▲ 7,522	
合計	5,384,028	5,376,506	▲ 7,522	

支出の部

項目	予算	決算	増減	備考
協力金	0	0	0	
名簿負担金	0	0	0	
予備費	5,384,028	5,376,506	▲ 7,522	
新聞発行費	0	0	0	
50周年事業費	0	0	0	
合計	5,384,028	5,376,506	▲ 7,522	

次年度繰越金	5,877,057
--------	-----------

平成25年5月21日

上記の通り決算報告をします。

大阪府立茨木工科高等学校茨陵会会計 上迫真理子
監査の結果適正に処理されていたことを認めます。

茨陵会会計監査 時久加代

平成25年度 茨陵会予算書（案）

収入の部

項目	本年度予算	前年度予算	増減	付記
前年度繰越金	5,877,057	3,035,340	2,841,717	
会費	1,332,500	1,488,500	▲ 156,000	6500×205名
雑収入	443	360	83	利子他
新聞賛助金	0	0	0	
合計	7,210,000	4,524,200	2,685,800	

支出の部

項目	本年度予算	前年度予算	増減	付記
総会費	10,000	10,000	0	総会時お茶菓子
通信費	50,000	50,000	0	ハガキ代・郵送費
印刷費	50,000	50,000	0	案内用印刷費
慶弔費	100,000	100,000	0	錢別金・慶弔費
会合費	70,000	70,000	0	理事会他
事務費	180,000	180,000	0	トナ一代
新入会員歓迎費	250,000	250,000	0	認め印鑑
積立金	3,000,000	0	3,000,000	
新聞発行費	1,100,000	1,000,000	100,000	
予備費	2,400,000	2,814,200	▲ 414,200	
合計	7,210,000	4,524,200	2,685,800	

平成25年度 基本金積立決算書（案）

収入の部

項目	本年度予算	前年度予算	増減	付記
前年度繰越金	5,376,506	5,373,448	3,058	
本年度繰越金	0	0	0	
雑収入	2,594	10,580	▲ 7,986	
普通預金より	3,000,000	0	3,000,000	
合計	8,379,100	5,384,028	2,995,072	

支出の部

項目	本年度予算
協力金	0
名簿負担金	0
予備費	8,379,100
合計	8,379,100

印刷全般 増原印刷

〒567-0855 大阪府茨木市新和町2-20 TEL.072-655-7775/FAX.072-655-7509/E-mail:goophy@hcn.zaq.ne.jp

茨木市イルミネーション ～今年も製作・施工の協力をしました～

いばらき、光回廊
リングイルミネーション
大阪府立茨木工科高等学校の
生徒の皆様に製作・施工を
ご協力いただきました。
茨木市

茨木市の冬の夜を彩るイルミネーション。今年度は「いばらき光回廊」と題して、平成24年11月30日～平成25年1月15日までの間、JR茨木駅前、阪急茨木市駅前そして阪急南茨木駅前の3ヵ所で点灯されました。

2年前より本校電気系の生徒が製作・施工に協力しています。今年は10月より課題研究の時間を利用して23名の生徒がJR茨木駅前東側のリングイルミネーションの製作・施工のお手伝いをしました。



茨木市の冬の夜を彩るイルミネーション。今年度は「いばらき光回廊」と題して、平成24年11月30日～平成25年1月15日までの間、JR茨木駅前、阪急茨木市駅前そして阪急南茨木駅前の3ヵ所で点灯されました。

平成25年1月の茨木市の「広報いばらき」の表紙に製作中の写真が掲載されました。



2年前より本校電気系の生徒が製作・施工に協力しています。今年は10月より課題研究の時間を利用して23名の生徒がJR茨木駅前東側のリングイルミネーションの製作・施工のお手伝いをしました。

本校の実績としまして「ものづくり技術を活かした地域貢献」の基、機械系3年生のアルミ製朝礼台や掲示板を製作して地域の幼・小・中学校へ寄贈、および電気系3年生による茨木市のイルミネーションの製作・施工の協力などです。

2年前より大阪府全域の高校で各方面への活動が著しく顕著な成果がある学校に対して特別な予算が付く「がんばった学校支援事業」制度が発足しました。これは校長による申請を基に資料およびプレゼンテーション等を経て厳密な審査によって決定されます。

今年度は取組みの成果がたいへん顕著で支援対象となる学校全11校の中を選ばれ、約500万円の予算をいただきました。

「がんばった学校」に選ばれました

11月30日JR茨木駅前で行われました点灯式では本校辻井校長も出席して点灯ボタンを押しました。

者同伴
ィア)

(先着)

駅東口

東口

順延

※電力供給状況によって変更になる場合があります。



卒業生の皆様へ

環境化学システム系 西岡邦英

卒業生の皆さん、各分野でご活躍され益々ご健勝のことと存じます。

私は、昭和63年（23期生）に工業化学科を卒業した西岡邦英と申します。

民間企業を経て平成23年4月に環境化学システム系の教諭として、母校に戻って参りました。

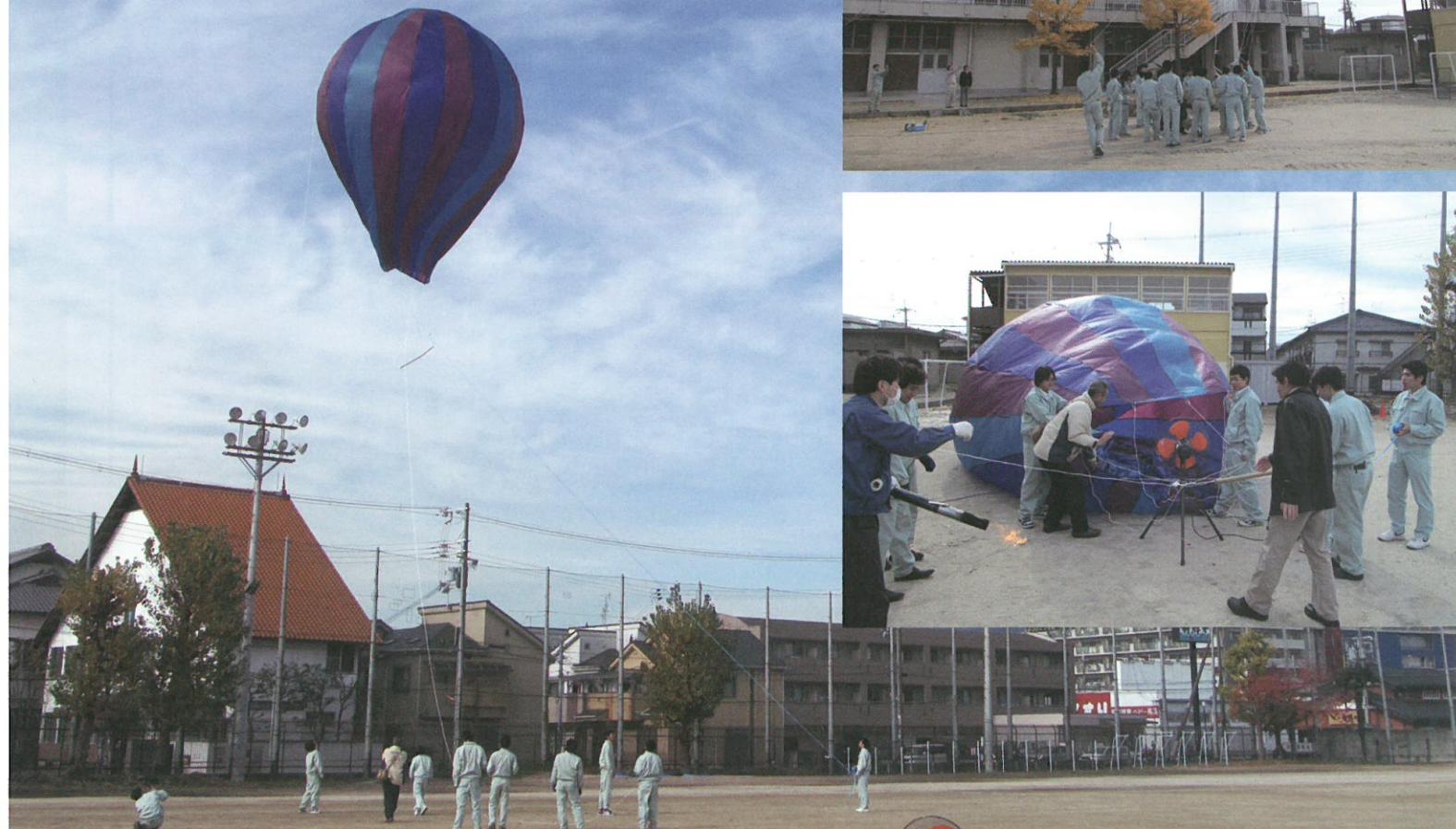
高校時代の1番の思い出は、2年生のときの文化祭で、自作の炭を熱源として直径5mの熱気球を制作したことです。夜9時まで残ってミシンをかけた苦労や、浮上したときの喜びなど今でも鮮明な記憶として残っています。

母校に戻ったときに第一に考えたことは、「あの感動を今の生徒たちにも伝えたい」ということでした。

今回は環境化学システム系3年生の課題研究という実習の中で、環境に優しいバイオディーゼル燃料を熱源として、私が生徒の時よりも大きな直径6mもある熱気球の制作に取り組みました。男子生徒ばかりで巨大な布の裁縫をするなどいくつもの苦労がありました。やっと熱気球が完成し、さらに自分たちで作った燃料で気球が浮かび上がったときには、生徒たちは笑顔であふれており、本当にうれしくて今までの苦労が一気に吹き飛んだような気がしました。また、私が生徒のときと同じように再び朝日新聞に今回の熱気球の記事が掲載され、本校生徒の活躍が大きく取り上げられたことも、生徒たちに自信を与え、高校生活の良い思い

出となって心に刻まれたこと信じております。

最後になりましたが、50周年記念の年に教諭として母校に在籍できることを本当にうれしく思っています。微力ではありますが茨木工科高等学校の発展に少しでも寄与できるよう努力していきたいと思います。



府立茨木工科高校（茨木市春日5丁目）の3年生17人が昨秋、手づくりの熱気球を飛ばすことに成功した。27年前、同じく手づくりの熱気球を飛ばした卒業生が教員となり、教え子たちにものづくりの楽しさを伝えたいと企画した。生徒たちは最後の授業となる2月7日にも再び熱気球をあげる予定だ。

茨木工科高生が飛行成功

燃料工夫、「環境型」に



西岡邦英教諭

考え方昨年9月、週一度の課題研究の授業で熱気球をつくるうと

される前にビーカーに醸油と酵素を少量ずつ取り、手で混ぜ合わせた。手は油まみれになつた。横1㍍の布20枚を一枚一枚ミシンで縫い合わせた。布が巨大なため、しわを押さえる役、ミシンを操作する役に分かれ、放課後も集まって黙々と作業した。あがたかつた。環境に優しい時代に即した実験ができる

6㍍の気球にバーナーの炎で暖められた熱風を扇風機で送り込み、だんだんと気球は起き上がり、その後、ゆっくりと舞い上がつた。30㍍まで上がつた後、一度高度を下がつたが、計5分間の浮遊に成功した。

企画したのは同校環境化学システム系の西岡邦英教諭(43)。茨木工科高校(当時は茨木工業高校)だった1986年、クラスメートとともに熱気球づくりに取り組んだ。

西岡さんは6年前に脱サラして教員免許を取得し、2年前に

今回は燃料に、醸油を再利用した「バイオディーゼル燃料(BDF)」を使った。燃料づくりには専用のBDF製造機を使用したが、材料となる醸油と酵素が反応しやすくなるため、BDFをつくる班は製造機に入

が、1月の本番では気球は秋晴れの空に見事に浮かんだ。気球づくりを担当した本山純治君(17)は「ちゃんと上がつてうれしかった。みんなで励まし合つて居残りし、卒業前の良い思い

し、この体験を卒業してから違う社会で生かしてほしい」。2月7日は、そんな思いを込めて再び熱気球を空にあげる。

(茨木香織)

気球の夢 世代超え



●西岡教諭の指導のもと、熱気球を飛ばす生徒たち
①27年前も手づくりの熱気球が飛んだ! いすれも茨木工科高校提供



着任のごあいさつ

教頭 山崎一郎

茨陵会の会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。教頭の山崎です。

本校は昨年（平成24年）10月に大きな節目である創立50周年を迎えることができ、12月1日には高槻現代劇場にて盛大なる記念式典を挙行いたしました。茨陵会からは御来賓と

して、実行委員長の小池会長、川崎副会長に式典に参列していただき、まことにありがとうございました。また、他にも多くの茨陵会の会員の皆様にも式典に参列していただき、ありがとうございました。式典に引き続き行われた、視聴覚行事であるジャズオーケストラには多くの参列者が魅了されました。このオーケストラの力強い演奏は本校の50年の歴史と重なり、感動をいたしました。

式典後に行われた祝賀会にも多くの茨陵会会員の皆様の御出席を賜り、ありがとうございました。小池会長の挨拶をはじめ、会員の皆様の茨木工業・工科の歴史を語り合うよき時間を過ごすことができ、たいへん感謝しています。

さて、本校は42年間の工業高校か

ら工科高校に改編され、今年度は工科9期生を迎えることになりました。さらに来年度（平成26年度）にはこれまでの機械系、電気系、環境化学システム系の他に、工学系大学への進学を意識した新しい系の設置・新入生募集が行われることが決定いたしました。ものづくりマインドを持った本校生が工学系大学のニーズに応えることができ、本校にとっては飛躍するひとつのチャンスだと考えています。就職・進学どちらの面でも期待されており、地域になくてはならない存在であると自負しております。

めまぐるしく変わる社会情勢に、素早く対応してまた新たな歴史がスタートいたします。今後とも皆様のご支援ならびにご協力を賜りますよう、心からお願ひいたします。

編集後記

創立50周年記念事業では、総務委員長を拝命し、小さなミスはありました

が、盛況の内に記念式典を終えることができ、関係の皆様方には、本当に深く感謝いたしております。

また、この新聞発行におきましては、編集長を拝命し、記念事業の総括を、旧職員、卒業生の皆様方にお知らせすることができますことに、しんどいな

がらも喜びを感じております。

17期生は、学校の誕生日と同じ昭和38年生まれが多い学年です。そのためでしょうか、私自身は本校に結構な愛着を持っております。

今後も皆様方のお力添えをいただきながら、学校ならびに茨陵会の発展に微力ながら尽力していく所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。

17期生 堀田 隆志



茨陵会ホームページ <http://www.shiryokai.com>

茨木工科高校ホームページ <http://www.osaka-c.ed.jp/ibaraki-t/kouka/>

文化祭のお知らせ

第51回文化祭を開催しますので
ご案内させていただきます。

入校には招待状が必要ですが、卒業生の皆様には卒業期とお名前を名簿にご記入していただき、ご入場してもらいます。

日時：平成25年11月9日（土）午前10時より

ご注意下さい！

茨陵会では、この新聞又は手紙によるご寄付の依頼以外は一切しておりません。また、他の業者を通して行うこともあります。（同窓会の名を騙る販売業者もいるようです。）特に近年の振込詐欺等にはご注意ください。